

これからのへまちの姿を考える ——工学&情報学の視点から

昨年度から始まった、静岡大学・中日新聞連携講座。
今年度は、私たちの日常生活の基礎となる、
〈まち〉のあり方に焦点を当てます。
静岡大学の教員が、それぞれの専門分野から
〈まち〉に関する最先端の研究をご紹介します、
これからの〈まち〉の姿について考えていきます。

第1回 2010.11.13(土)14:00~16:00
「本当のエコライフって、何だろう?
——環境問題のウソ・ホントを見分けるために」

講師：松田 智(静岡大学工学部准教授)

第2回 2010.12.11(土)14:00~16:00
「超臨界・亜臨界流体がひらく新しい環境・エネルギー技術」

講師：佐古 猛(静岡大学創造科学技術大学院教授)

第3回 2011.1.8(土)14:00~16:00
「ガバナンス(情報共有と合意形成)からみた平成の市町村合併」

講師：西原 純(静岡大学情報学部教授)

第4回 2011.2.12(土)14:00~16:00
「経営情報学からモノづくりのまち・浜松を考える」

講師：田中 宏和(静岡大学情報学部教授)

第5回 2011.3.5(土)14:00~16:00
「東海地震について考えるための防災ゲーム」

講師：前田 恭伸(静岡大学工学部准教授)

■申込方法

FAX・メール・葉書のいずれかによりお申し込みください(先着順)。

[FAX] 054-238-4817

[メール] LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

[葉書] 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

静岡大学生涯学習教育研究センター宛て

※住所、氏名(ふりがな)、電話番号、講座名、参加回を明記してください。

当日参加も歓迎します！

参加
無料

参加費●無料 定員●50人

会場●第1回：静岡大学浜松キャンパス総合研究棟3階 31講義室

第2回～5回：TKP浜松カンファレンスステーション 会議室2
(浜松駅ビル「MAY ONE」4階)

主催●静岡大学地域連携協働センター・静岡大学生涯学習教育研究センター
中日新聞東海本社

問い合わせ●静岡大学生涯学習教育研究センター

☎054-238-4817 [平日9:30~16:30] e-mail : LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

これからの〈まち〉の姿を考える ——工学&情報学の視点から

第1回 11/13 (土) 14:00~16:00

本当のエコライフって、何だろう？ ——環境問題のウソ・ホントを見分けるために——

松田 智 (静岡大学工学部准教授)

「低炭素社会」は、真に我々の目指すべき社会なののでしょうか？本当の「エコ」とは何でしょうか？地球環境問題は温暖化が全てではありません。まずはその全体像を再考し、改めて温暖化問題の特異性、エネルギー問題の基礎知識(供給サイドと消費サイドの両面から)、二酸化炭素削減のコストと効果などを見つめ直します。また、身近な「エコポイント制度」や「エコカー減税」とは何であったのかを検証し、真の「エコライフ」を考える手がかりとします。これらを通して、マスコミ等、世間一般に流布している情報を盲信・鵜呑みにせず、環境問題の「ウソ・ホント」を見分けるコツを身につけることを目指します。

第2回 12/11 (土) 14:00~16:00

超臨界・亜臨界流体がひらく新しい環境・エネルギー技術

佐古 猛 (静岡大学創造科学技術大学院教授)

地球温暖化の防止や石油依存型社会の脱却のために、量が豊富で二酸化炭素排出量が少ないバイオマスを有効利用する技術が強く望まれています。とりわけ静岡県内では、茶かす、コーヒーかす、みかんの絞りかす、食品廃棄物、生ごみ、汚泥、家畜ふん、木質廃棄物等、大量のバイオマス廃棄物が毎日排出されており、それらの適正処理と資源・エネルギーへの利活用は、環境と衛生の悪化を防ぎ、新たに安価な資源や燃料を確保し、環境・エネルギー分野の新産業を創成する点から大いに期待されています。今回のセミナーでは、高温の超臨界・亜臨界水を使って、今まで捨ててしかなかったゴミや廃棄物から、資源、燃料、エネルギーといった有用物を造り出す技術を紹介いたします。

第3回 2011.1/8 (土) 14:00~16:00

ガバナンス(情報共有と合意形成)からみた平成の市町村合併

西原 純 (静岡大学情報学部教授)

平成の市町村合併によって、静岡県でも面積が1,000平方キロメートルを超える広域な自治体が誕生しました。また、他の合併自治体でも大規模な自治体が誕生したため、これまでにない新しい行政組織形態として「総合支所方式」や「分庁方式」と言われる庁舎の方式が採用されました。これらの特徴的な合併自治体の実情について、情報社会の基礎概念「ガバナンス(情報共有と合意形成)」を使って、広域自治体や分庁方式採用自治体での行政の進め方を分析するとともに、住民の合併に対する評価・意見を調査した結果をお話します。

第4回 2/12 (土) 14:00~16:00

経営情報学からモノづくりのまち・浜松を考える

田中 宏和 (静岡大学情報学部教授)

モノづくりのまち・浜松の担い手は町工場です。景気回復が思わしくないなか、町工場に活路はあるのか、あるとすればどういう方向が考えられるのかを戦略、組織、人材の三つの側面から考えます。そのときにヒントになるのが「温故知新」と「半歩先」の二つのキーワードです。日本の歴史、文化、ものづくりの特性をいまに生かす方策と日常の小さな変革を大きな変革につなげていく方法を提案します。

第5回 3/5 (土) 14:00~16:00

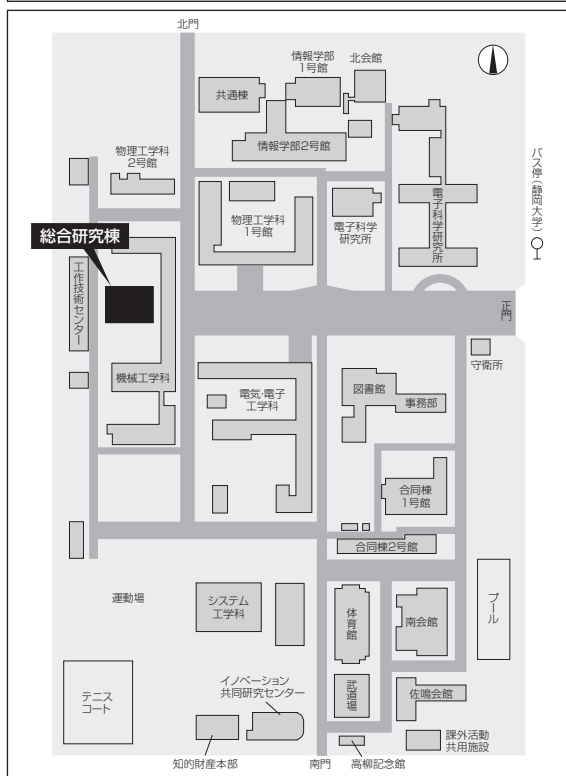
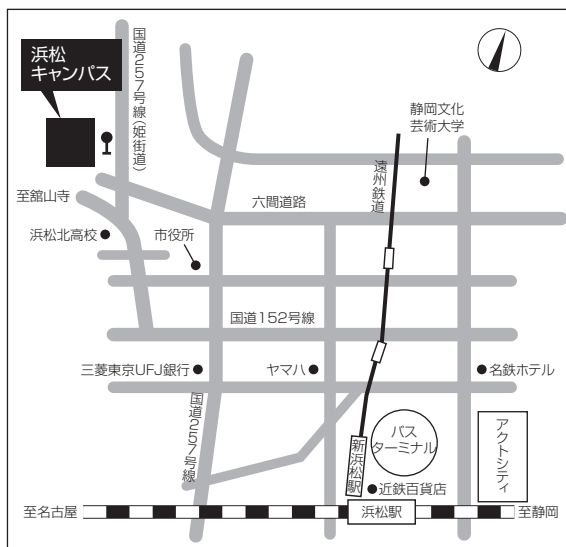
東海地震について考えるための防災ゲーム

前田 恭伸 (静岡大学工学部准教授)

東海地震は、向こう30年間に87%の確率で起こると言われています。そのとき、私たちはどのように対処すればいいのでしょうか？この講演では、地震が発生した場合の様々な事態に対して、どのように判断すればいいか、周りの人たちとどのように意見交換すればいいかということ、実感するためのゲームをご紹介します。講演の前半ではゲームが開発されたいきさつについてお話をし、後半では実際に皆さんと一緒にゲームを行い、東海地震発生時の対処について、学んでいきたいと思います。

交通案内

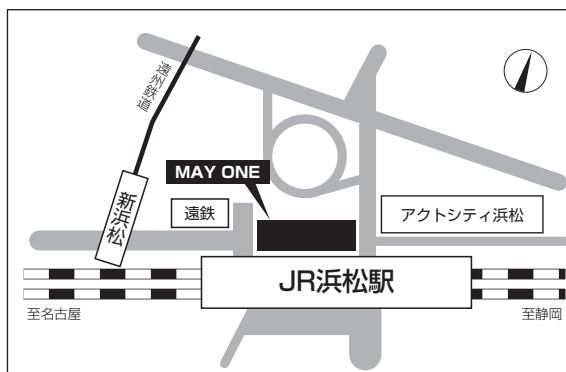
■第1回の会場 ※第1回のみ会場が異なりますのでご注意ください
静岡大学浜松キャンパス総合研究棟3階31講義室



JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
※講座実施日(11/13)は、大学祭(テクノフェスタ)開催中のため、自動車での来場はできません。公共交通機関をご利用ください。

■第2~5回の会場

TKP浜松カンファレンスステーション 会議室2



JR浜松駅徒歩0分(浜松駅ビル「MAY ONE」4階)